

流通とS C・私の視点

2011年11月15日

視点(1476)

2050年のアジア経済規模は!!

「Asia 2050—Realizing the Asia Century」(アジア2050年・アジアの世紀は実現するか。2011年8月2日アジア開発銀行発表)によると、アジアの2050年経済規模は次の通りと予測しています。

現在 (2010年)	アジアのGDP		17兆ドル	
	世界のGDP		63兆ドル	
	アジアのGDPシェア		27%	
	日本のGDP		5.5兆ドル	
40年後				
未来 (2050年) 40年後	現在の成長が続くシナリオ			
	アジアのGDP		174兆ドル	
	世界のGDP		335兆ドル	
	アジアのGDPシェア		52%	
	現在の倍率	アジアのGDP	10.2倍	
		世界のGDP	5.3倍	
悲観のシナリオ				
アジアのGDP		65兆ドル		
世界のGDP		210兆ドル		
アジアのGDPシェア		31%		
現在の倍率	アジアのGDP	3.8倍		
	世界のGDP	3.3倍		

今後、成長が続くシナリオが実現すると「アジアの経済規模」は、18世紀後半の産業革命前(300年前)のインドと中国が全盛期のアジアの時代と同じ状態になるそうです。また、世界の人口対比とも同じになるそうです。

2050年の日本のGDPは、今回の研究では定かではありませんが、日本を取り巻く経済圏に、最低65兆ドル(毎年3.5%の成長)、場合によっては174兆ドル(毎年6.0%の成長)が存在することになり、現在(2010年)の3.8~10.2倍の毎年3.5~6.0%の成長を想定しています。

この悲観のシナリオの要因は、アジアの新興国が「中所得の罟」(新興国がより後発国にコスト面で対抗できなくなり、成長が低くなる現象)に陥る場合を想定しています。

この2050年のアジアの繁栄に向かって歩む上で先導役を果たすのは、すでに先進国である「日本」「韓国」に、高成長を遂げている「中国」「インド」「インドネシア」「タイ」「マレーシア」のアジア7ヶ国です。

この7ヶ国の合計人口は、2010年で31億人、アジア全体の78%、GDPは15兆ドルの87%を占めていますが、2050年にアジアの世紀が実現した場合は、人口は75%、GDPは90%となると試算されています。

また、この7ヶ国のGDPの1人当たり換算では2050年で平均40,800ドル(購買力平価)に達し、現在の欧州の水準に近づくこととなります(悲観シナリオでは、1人当たりGDPは20,600ドルにとどまると試算されています)。そうなれば、アジアでは約30億人が新たな富裕層の仲間入りを果たすこととなります。

日本のGDPは現在(2010年)、世界のGDPの8.0%、アジアのGDPの32.3%を占めています。

さあ、日本は大躍進するアジアの中核的役割を果たすことにより、アジアの成長を日本の成長に組み込む大チャンスです。クールジャパンやポストモダン・ニューモダン消費は、まさに日本の時代です。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六 車 秀 之